

ファンシーパンのおかげです

ベトナムの最高峰、ファンシーパンに登ってみたいね、という声があがったのは、2004年2月、ミャンマーでビクトリア山に登り、少数民族の村を訪ねるトレッキングを終了したときだった。イラワジ河の岸边から沈みゆく夕陽を眺めていたとき、誰かが話題にしたのだった。しかし、すぐには具体化しなかった。その時のメンバーも含めて15人がファンシーパンの頂に立ったのは、5年後の2009年2月11日のことだった。

スイスアルプスやカナディアンロッキーは絵ハガキのような美しさで、ネパールヒマラヤは圧倒的なスケールで、台湾の玉山やマレーシアのキナバル山は、富士山より高い頂に立つという明快な目的で、その地、その山をめざす計画はすんなり決定する。

しかし、ミャンマーのトレッキングは、ロケーションや頂の魅力で計画が決まったのではなかった。ミャンマーという国への好奇心が、ツアーを実施させたのだと思う。「ファンシーパンに登ってみたい」という声は上がったものの、最高峰といっても富士山より低い。氷河があるわけでもなく、写真で見る限り、日本の山と似たり寄ったりでインパクトがない。ベトナムという国への好奇心も低かったことに加えて、帰り道にはカンボジアに立ち寄って、アンコール遺跡を見学したいというリクエストもあったりしたので、旅のアレンジの煩雑さが足を引っ張り、計画はすぐには具体化しなかったのだ。

今回、ベトナム、カンボジアを訪れて、充実感が大きかった。我々山好きにとって、なぜ海外に出ていくかといえば、その山、その地の自然の魅力に引き寄せられるからだろう。正直に言って、ファンシーパンという山は、マッターホルンに比すべきもない。ファンシーパンだけが目的だとしたら参加者はもっと少なかったのではないかと思う。

山好きだから、山がない国に行く理由を捜すのは難しいが、山さえあれば出かける理由にはなる。ファンシーパンのおかげで、ちょっと前までは思ってもいかなかったベトナムを訪れることができ、カンボジアのアンコール遺跡観光を楽しむことができた。ベトナムやカンボジアという国と、人々の魅力は、スイスよりずっと上であった。スイスにしても、カナダにしても、ニュージーランドにしても、素晴らしい自然はあるけど、人間不在を感じていただけに、今回の旅は得るものが多かったように思う。

もちろんファンシーパンに魅力がないのではない。ファンシーパンに登れたからこそ、ベトナムやカンボジアが活々として、ぼくの目に飛び込んできてくれたのだ。

山を口実にして、あっちこっちの国や土地を訪れてみたいと考えるようになった。それが「岩崎元郎の地球を遠足」だ。

キューバ、海南島、コルシカ島、スリランカ、インドネシア、メキシコに行きたい。パプアニューギニアも再訪してみたい。